

事業用自動車総合安全プラン2020

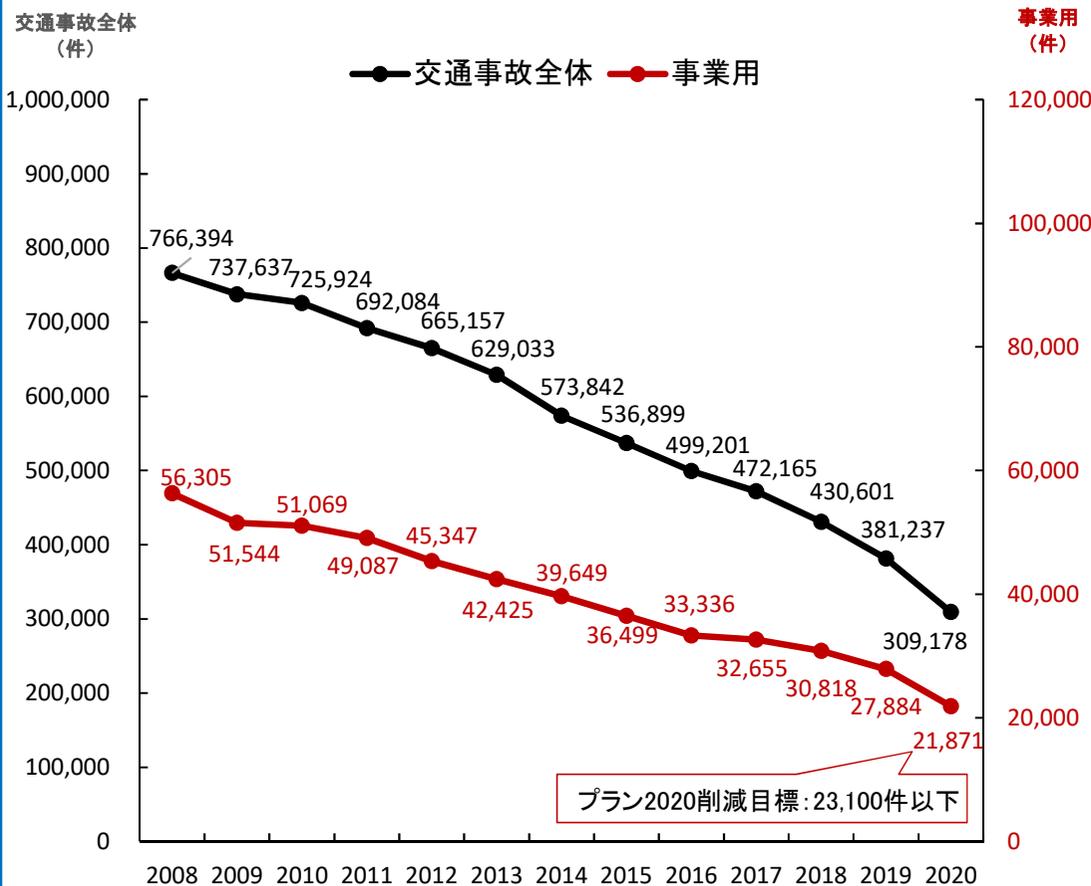
～最近の交通事故発生状況等～

交通事故件数の推移

○2020年中に発生した交通事故全体の件数(人身事故件数)は**309,178**件であり、そのうち、事業用自動車の交通事故件数(※)は**21,871**件となった。 ※ 事業用自動車が第一当事者である人身事故件数

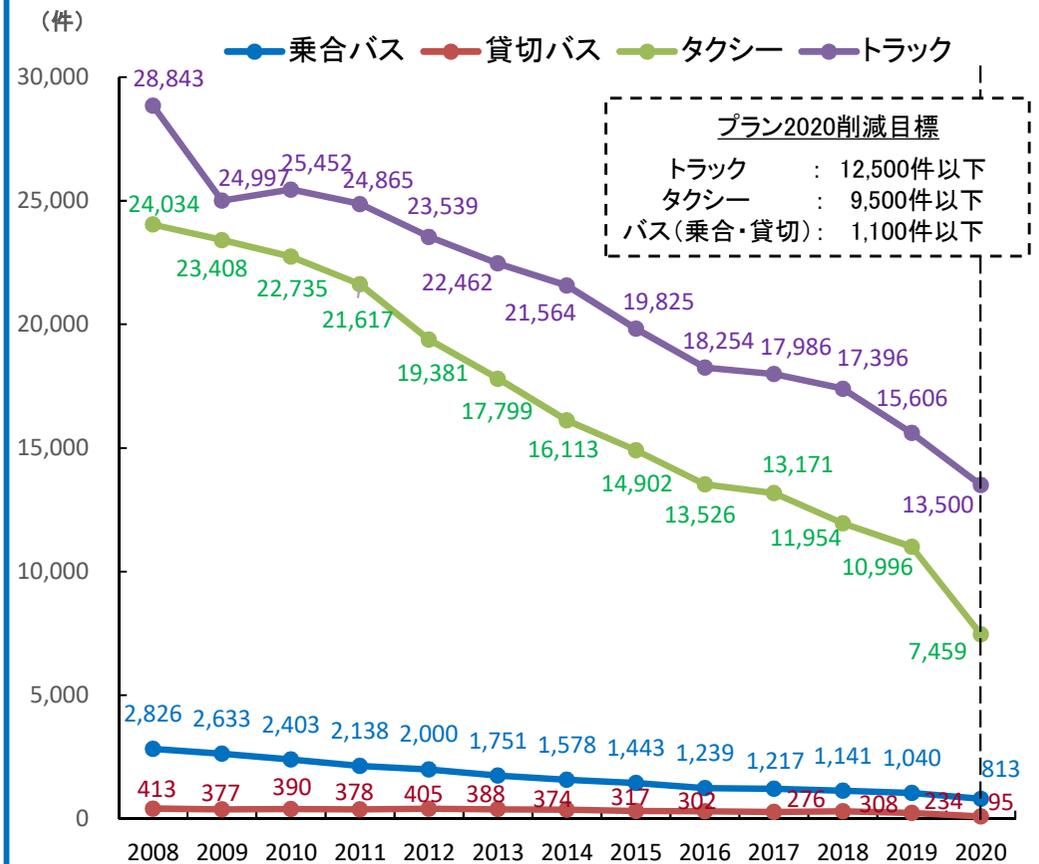
○各モードの交通事故件数は、全てのモードにおいて前年に比べ減少している。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故の推移



出典: 警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

各モードの交通事故の推移



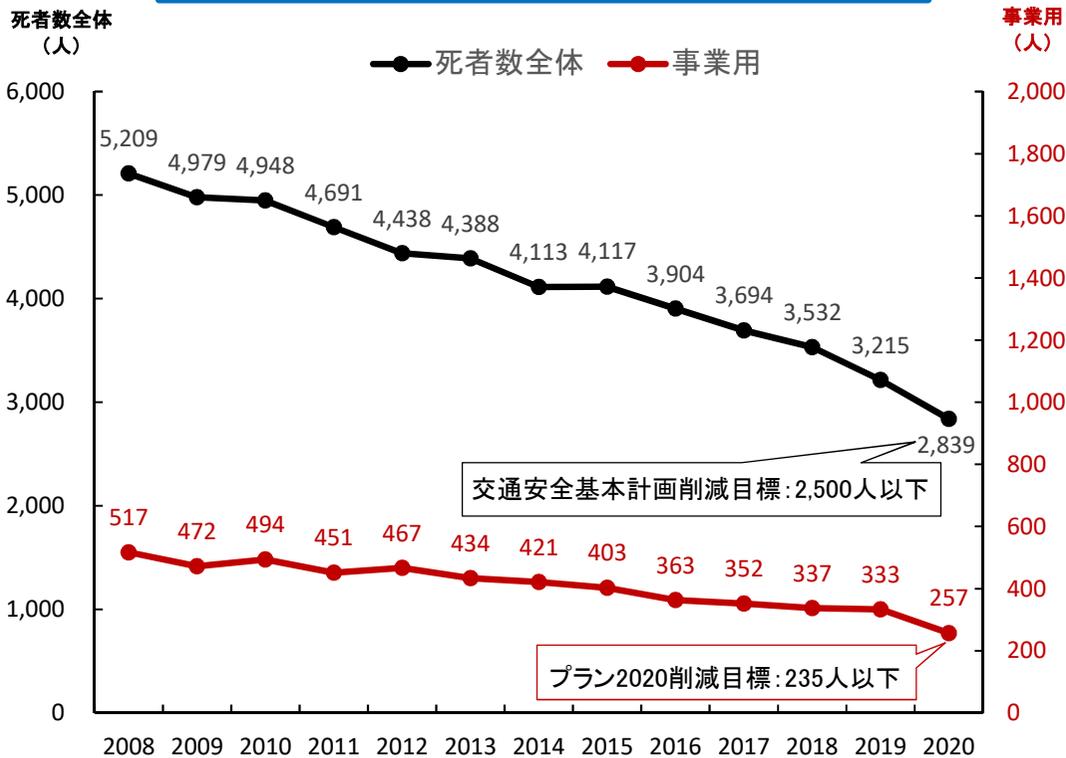
出典: 警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

交通事故死者数の推移

- 2020年中に発生した交通事故全体の死者数は**2,839**人であり、そのうち、事業用自動車の交通事故死者数は**257**人(前年比76人減)となっている。
- 2020年の各モードの交通事故死者数は、トラック・タクシーは減少、乗合バスは前年と同水準であり、貸切バスによる交通事故死者数はゼロであった。

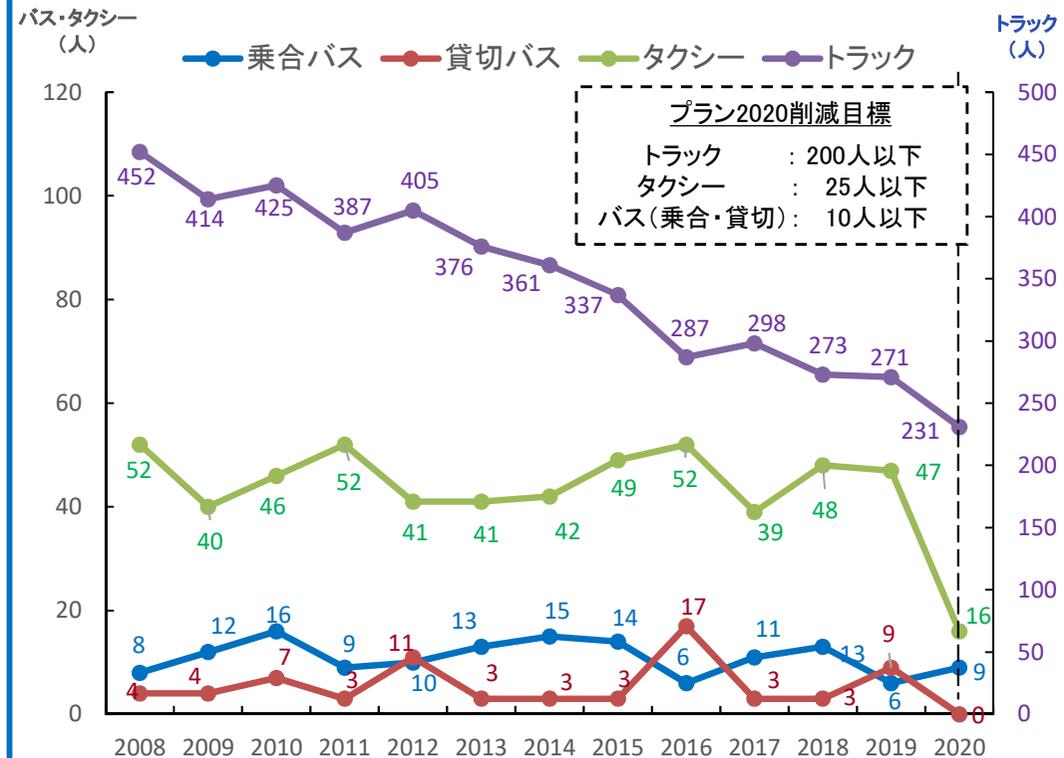
※貸切バスは2012年、2016年の数値が、それぞれ、関越道高速ツアーバス事故、軽井沢スキーバス事故により大きくなっている。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故死者数の推移



出典:警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

各モードの交通事故死者数の推移



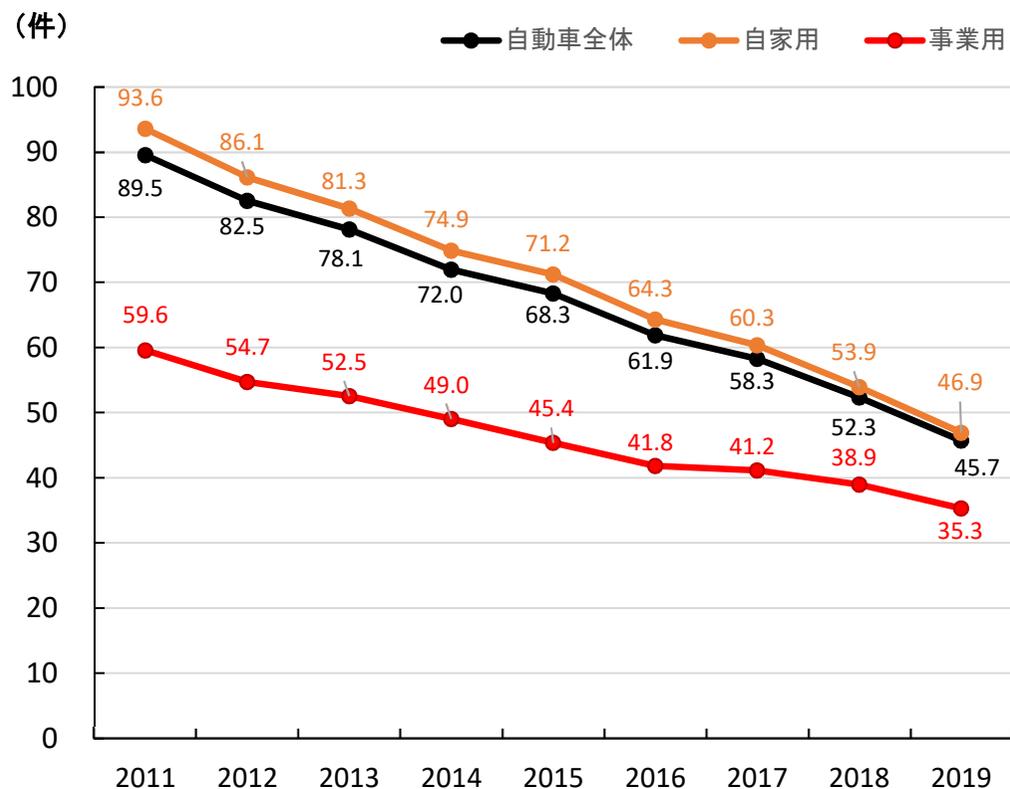
出典:警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移

○走行距離1億キロあたりの交通事故の件数は、事業用が自家用の7～8割程度となっており、減少傾向で推移している

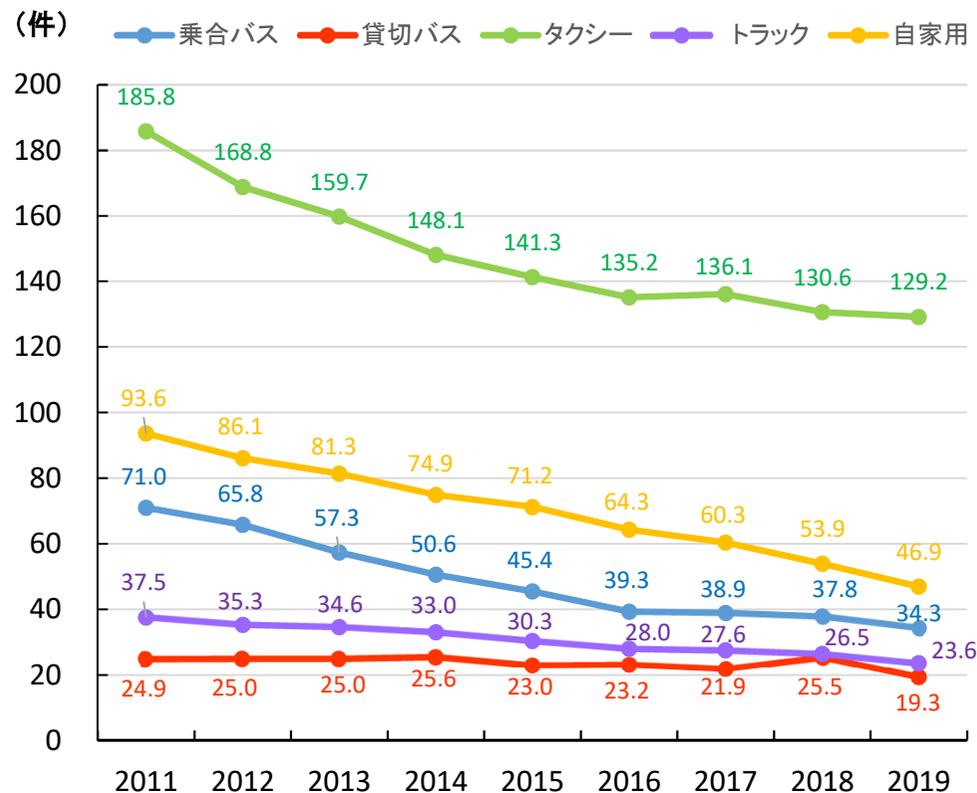
○各モードは、長期的にはそれぞれ減少傾向で推移しているが、近年の減少率は低下し、横ばい傾向にある。

走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

各モードの走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移



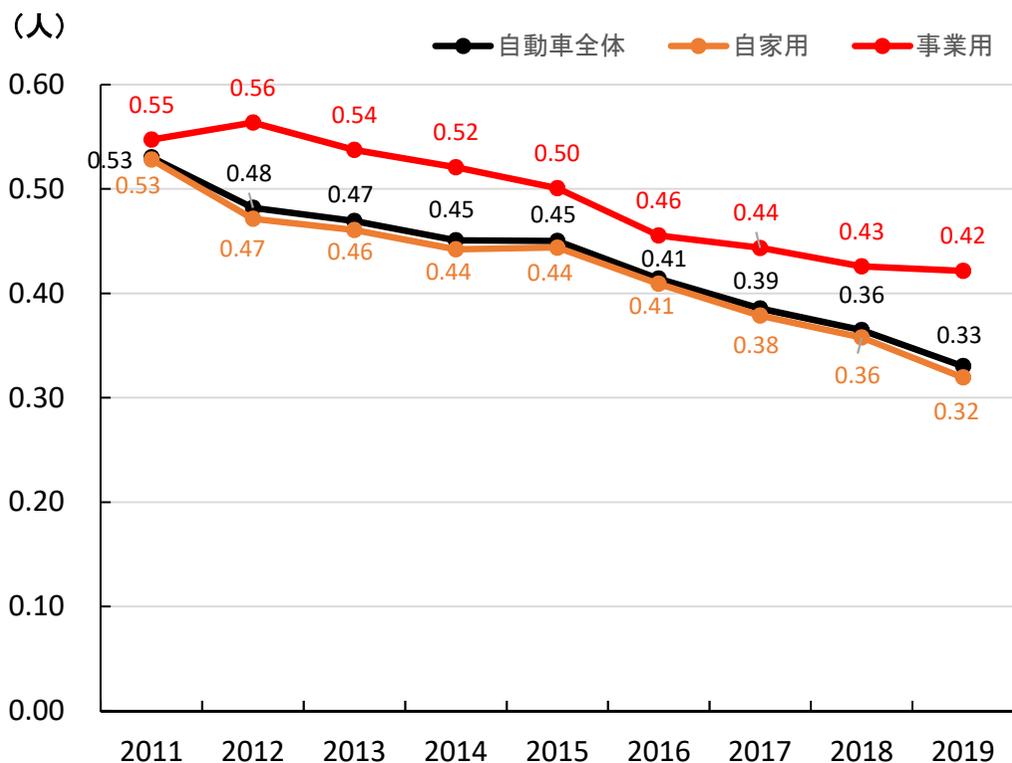
出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移

○走行距離1億キロあたりの交通事故死者数は、自家用・事業用ともに長期的には減少傾向で推移しており、事業用が自家用を上回っている状況である。これは、車両の重量や輸送人数等、事業用自動車の運行形態の特性により、事故発生時の被害が大きくなることが考えられる。

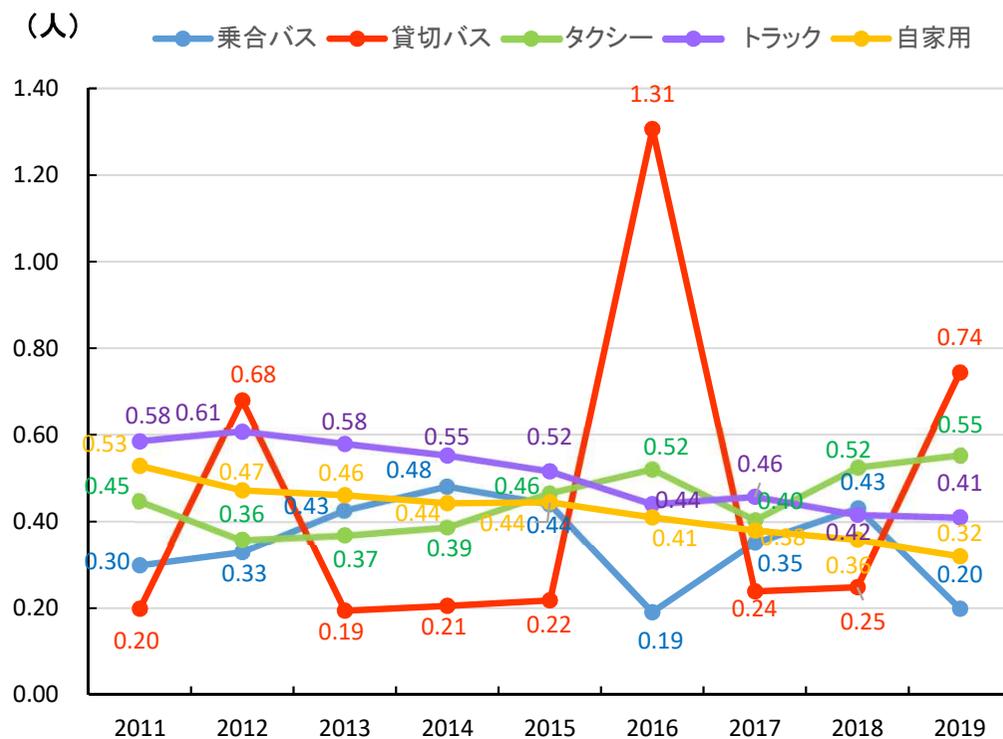
○各モードごとの2019年の数値は、トラック、乗合バスは前年より減少、タクシー、貸切バスは増加している。

走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

各モードの走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移

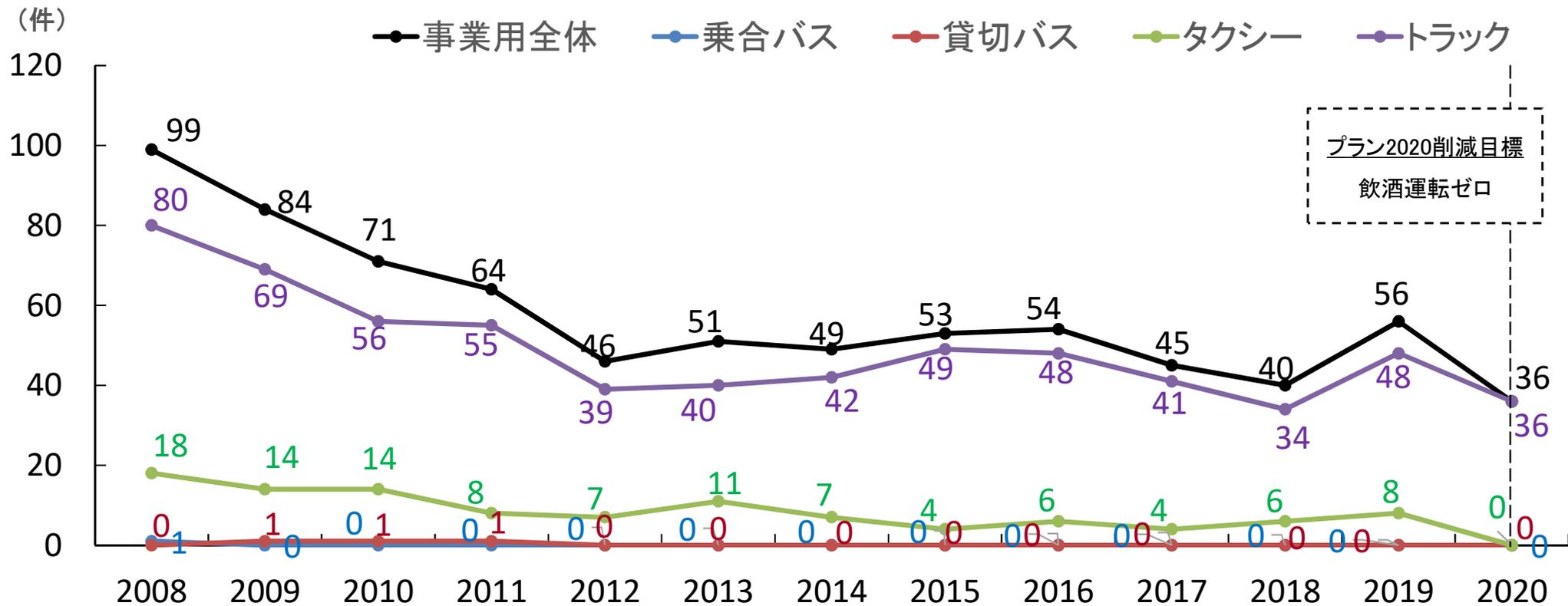


出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

飲酒運転による事業用自動車事故の推移

○飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、2020年は36件（前年比20件減）発生した。
 ○2020年に発生した飲酒運転事故は、全てトラックによるものであり、乗合バス、貸切バス、タクシーによる飲酒事故は発生しなかった。

飲酒運転による事業用自動車の交通事故



プラン2020削減目標
飲酒運転ゼロ

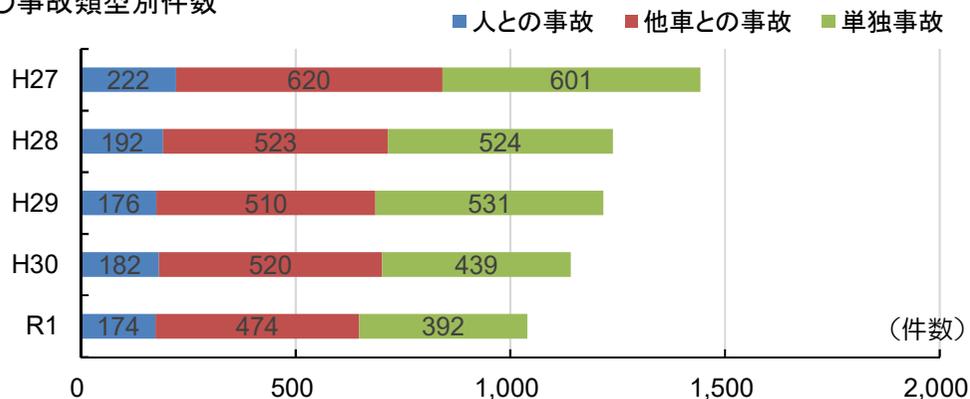
出典：警察庁「交通統計」
 （公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスによる事故の特徴

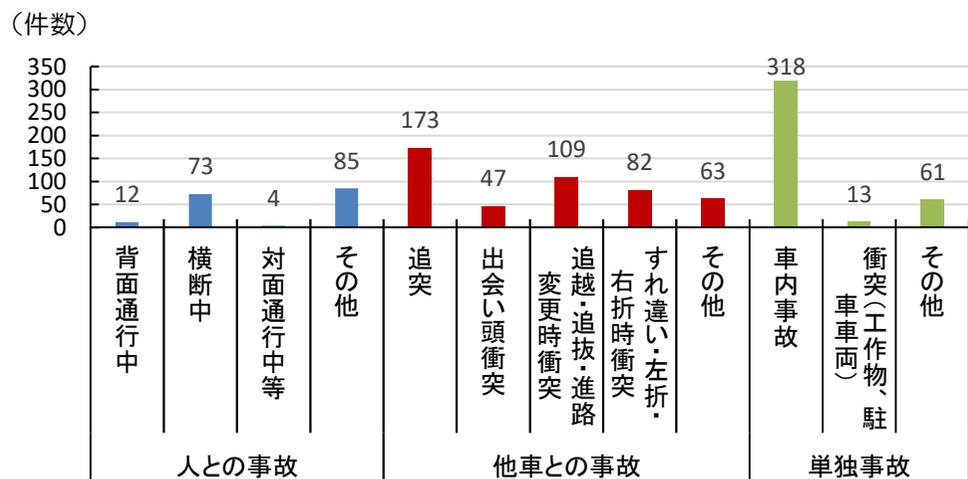
- 交通事故件数は前年に比べ減少しており、直近5年間で最少となっている。
- 令和元年は事故類型のうち、車内事故が318件発生し、乗合バス事故全体の約3割を占めている。
- 令和元年の死亡事故については、歩行者との事故が5件発生している。

乗合バスの事故類型

○事故類型別件数

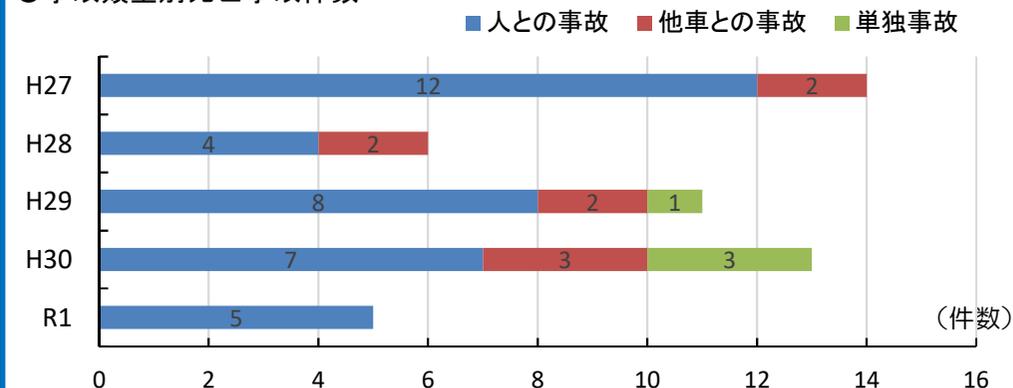


○令和元年事故類型別事故件数の内訳

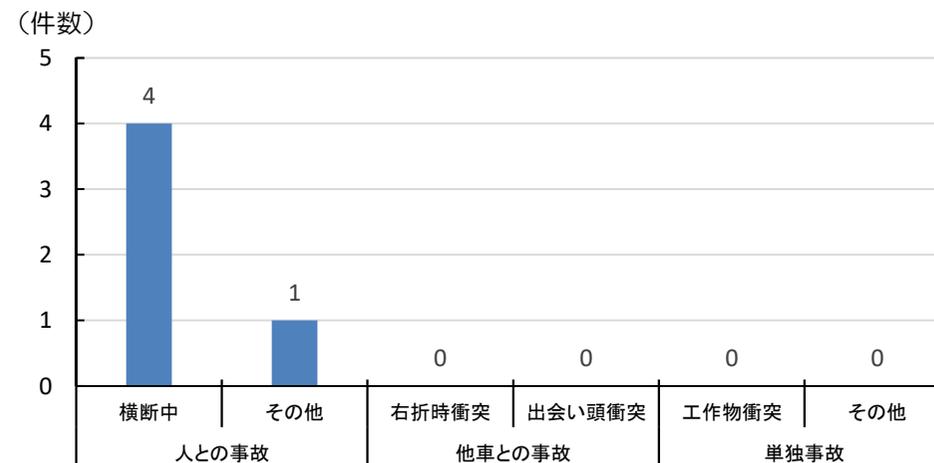


乗合バスの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数



○令和元年事故類型別死亡事故件数の内訳



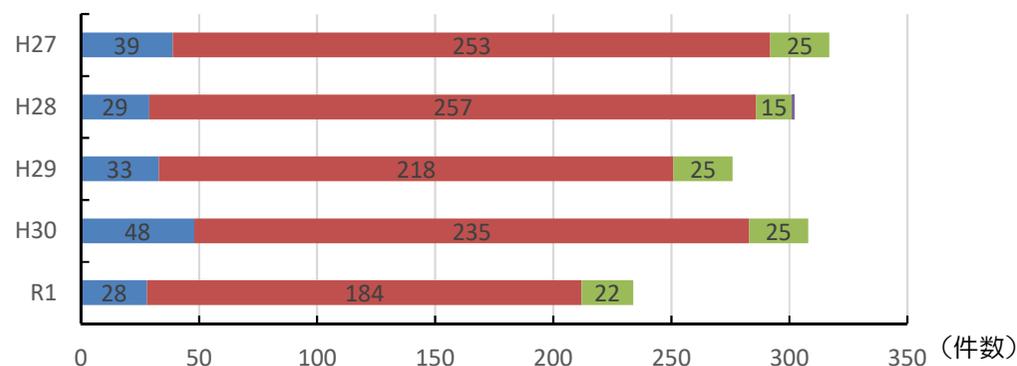
貸切バスによる事故の特徴

- 交通事故件数は前年に比べ減少しており、直近5年間で最少となっている。
- 令和元年は事故類型のうち、追突事故が最多で78件発生しており、貸切バス事故全体の約3割を占めている。
- 令和元年の死亡事故については、死亡事故は9件と近年の水準を大きく上回ったが、乗客の死亡事故は発生しなかった。

貸切バスの事故類型

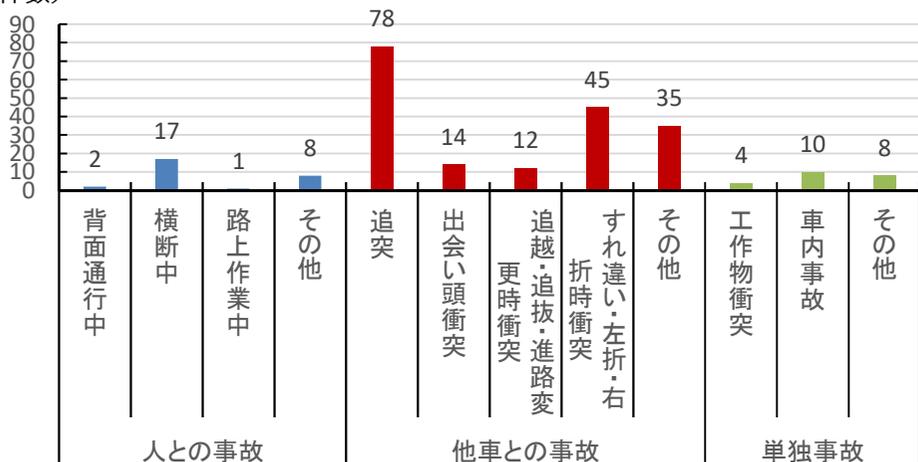
○事故類型別件数

■人との事故 ■他車との事故 ■単独事故 ■列車



○令和元年事故類型別事故件数の内訳

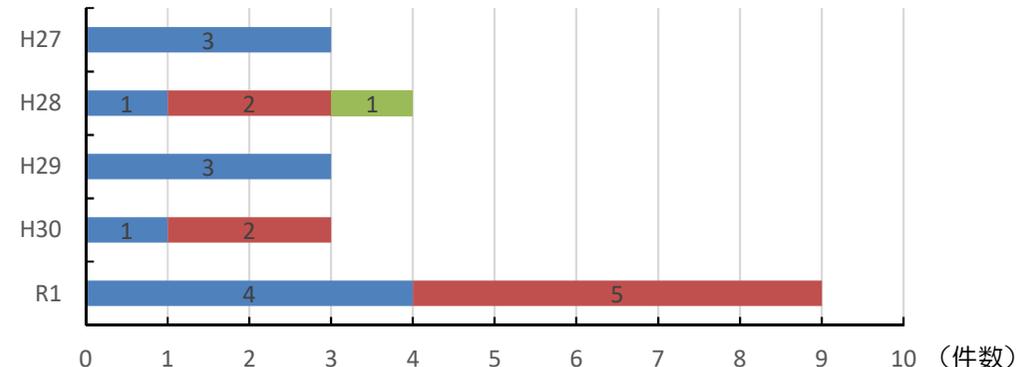
(件数)



貸切バスの死亡事故類型

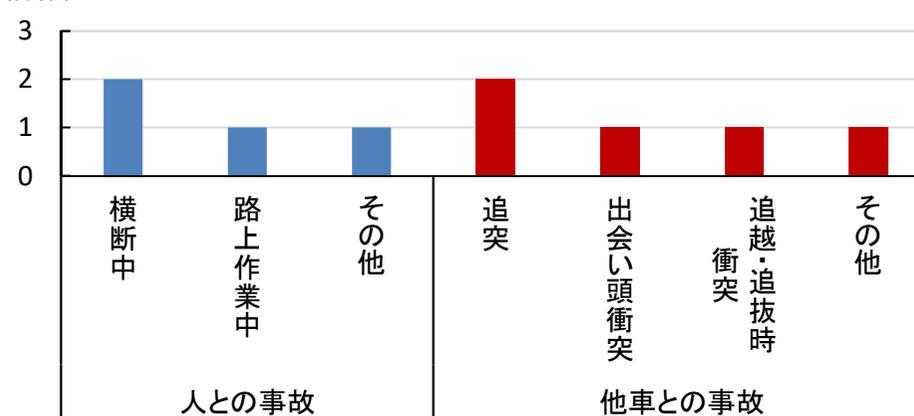
○事故類型別死亡事故件数

■人との事故 ■他車との事故 ■単独事故



○令和元年事故類型別死亡事故件数の内訳

(件数)



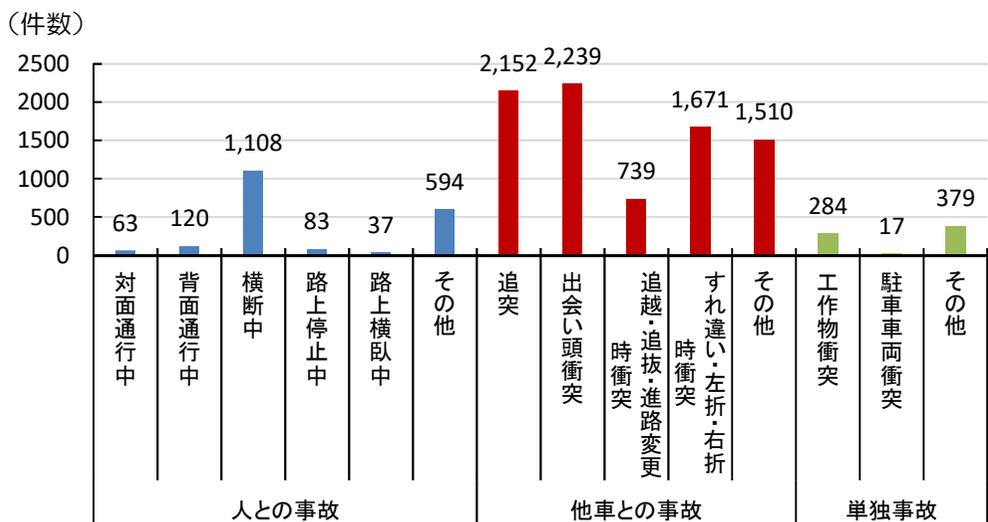
タクシーによる事故の特徴

- 交通事故件数は前年に比べ減少しており、直近5年間で最少となっている。
- 令和元年は事故類型のうち、出会い頭衝突事故が最多で2,239件、次いで追突事故が2,152件発生しており、それぞれタクシー事故全体の約2割を占めている。
- 令和元年の死亡事故については、発生した47件のうち、歩行者との事故が36件発生した。

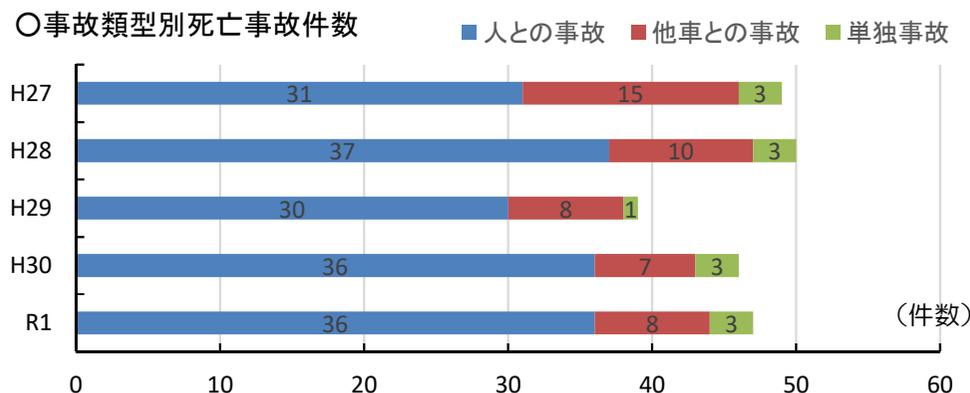
タクシーの事故類型



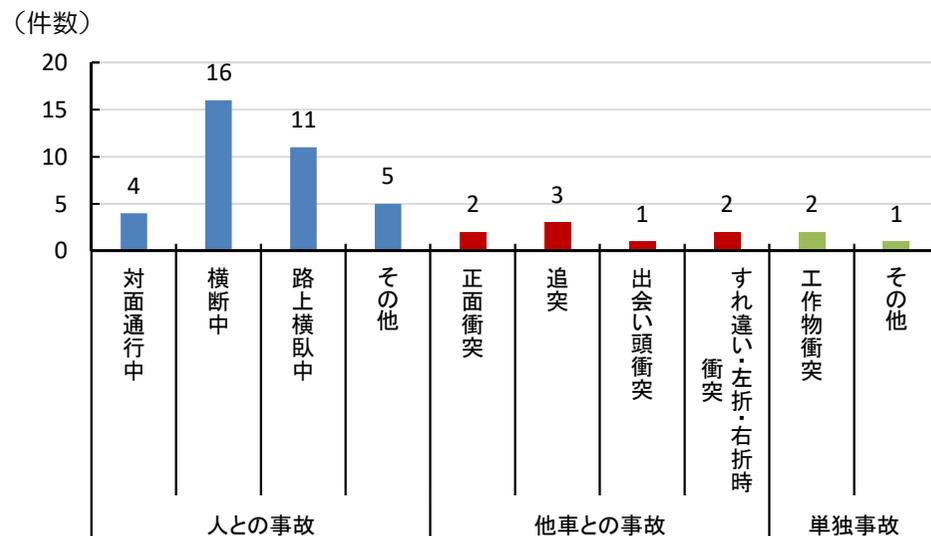
○令和元年事故類型別事故件数の内訳



タクシーの死亡事故類型



○令和元年事故類型別死亡事故件数の内訳

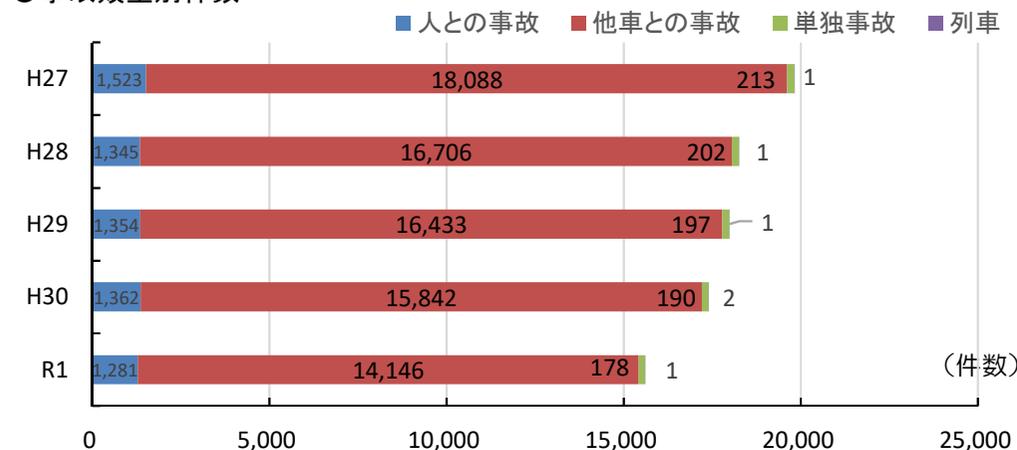


トラックによる事故の特徴

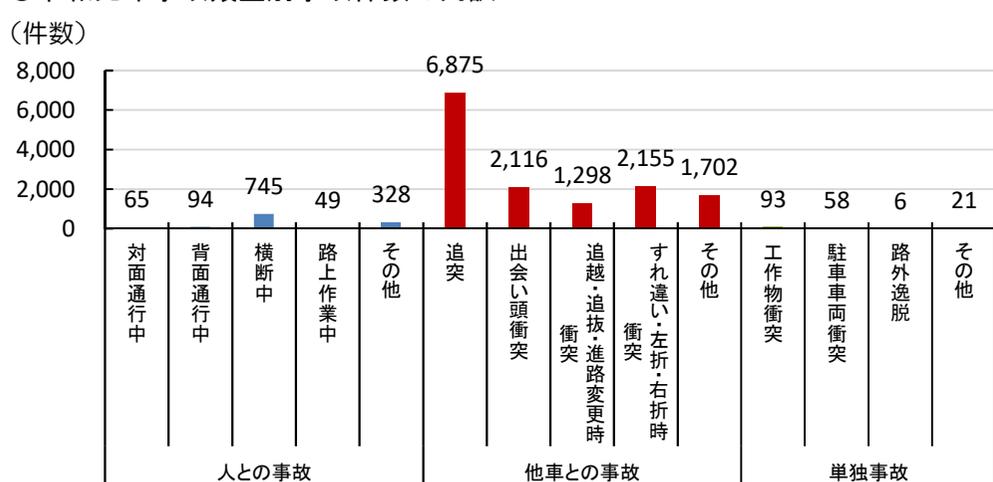
- 交通事故件数は前年に比べ減少しており、直近5年間で最少となっている。
- 令和元年は事故類型のうち、追突事故が最多で6,875件発生しており、トラック事故全体の約4割を占めている。
- 令和元年の死亡事故については265件発生した。他車との事故が減少している。

トラックの事故類型

○事故類型別件数

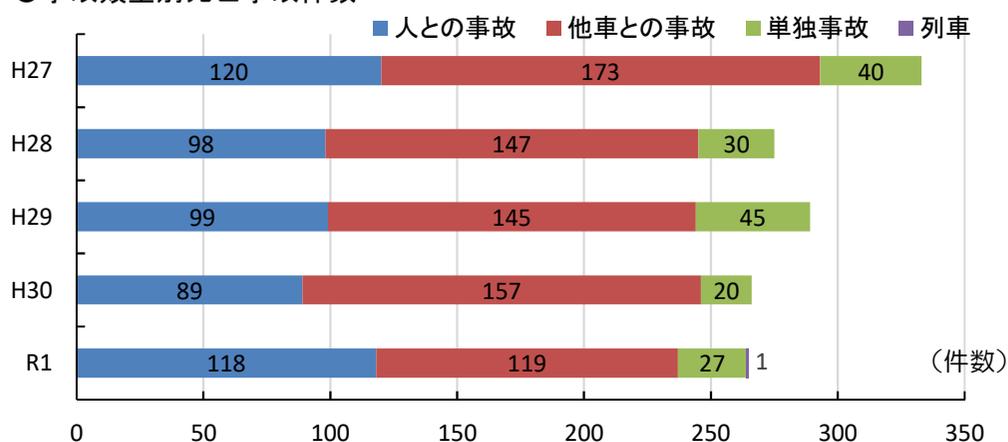


○令和元年事故類型別事故件数の内訳

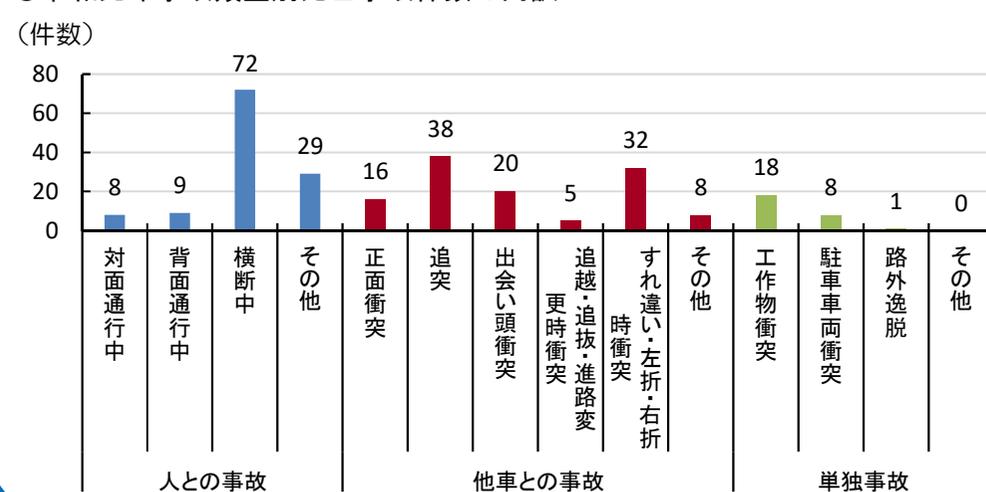


トラックの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数



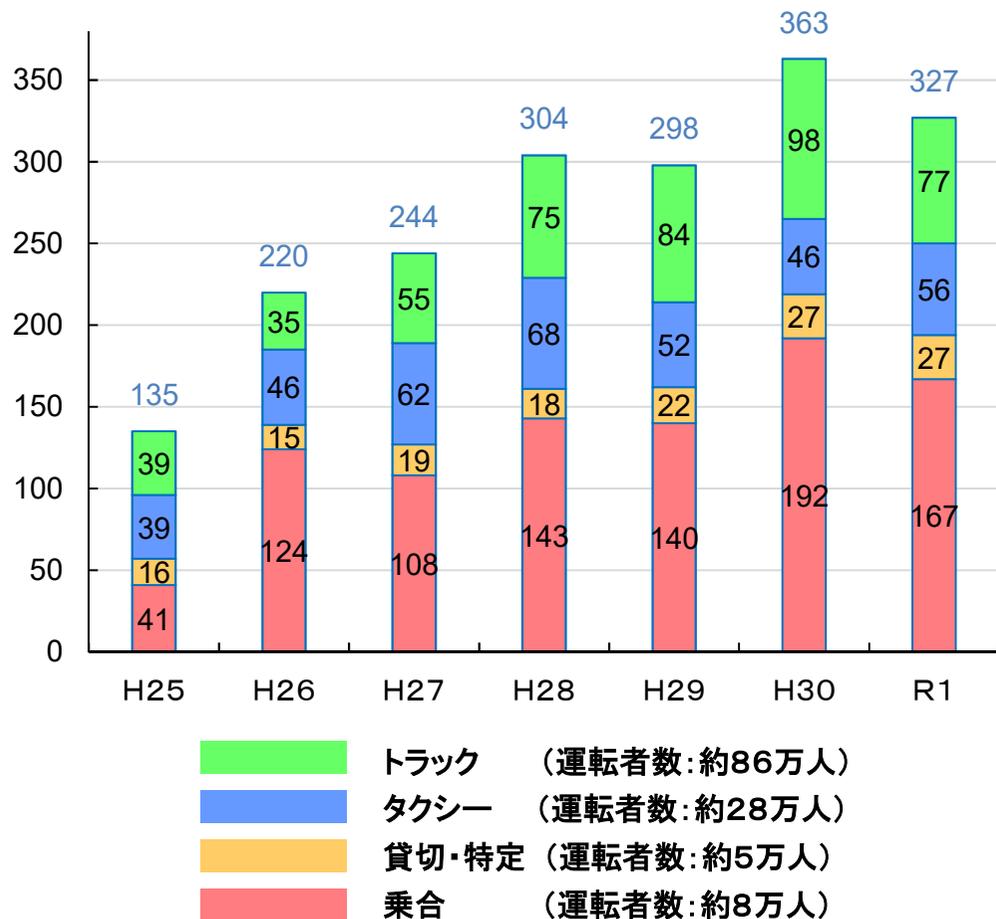
○令和元年事故類型別死亡事故件数の内訳



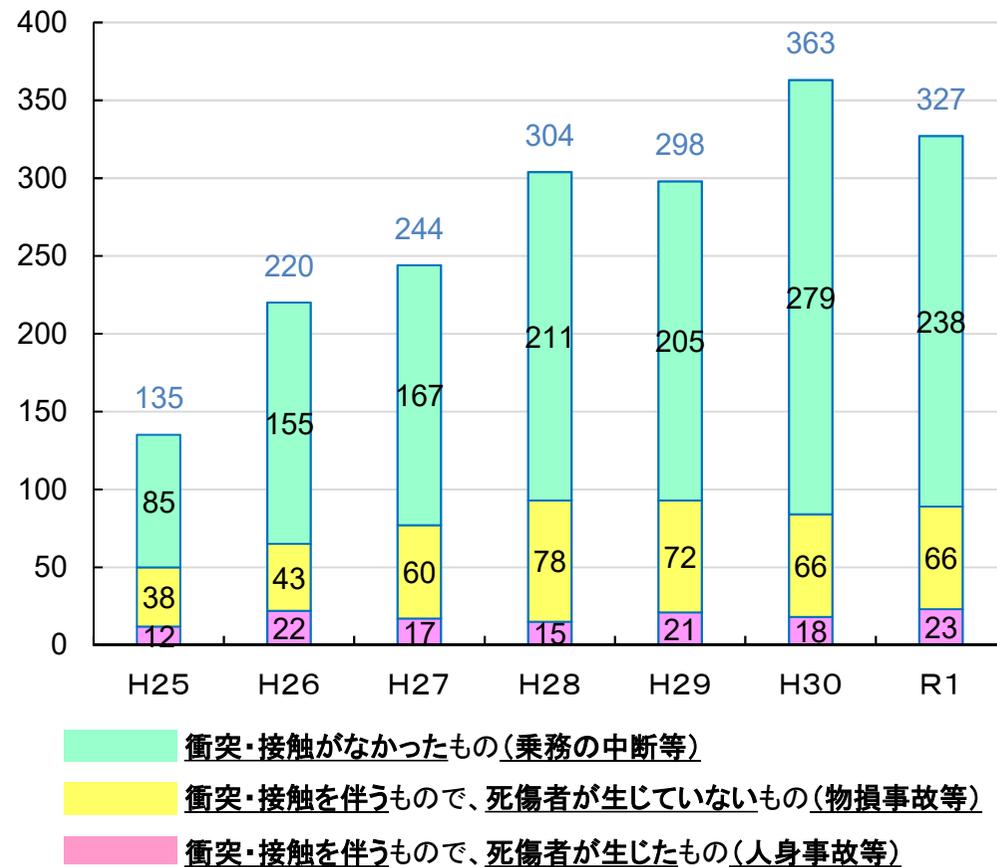
運転者の健康状態に起因する事故報告件数の推移

- 運転者の疾病により事業用自動車の運転を継続できなくなった事案として、自動車事故報告規則に基づき報告のあった件数は、健康起因事故に対する事業者の意識の高まり等を反映し増加傾向にある。(報告件数は引き続き、乗合バスが最も多い)
- 令和元年は運行の中断等、交通事故に至らなかったものが約7割と大半を占める。
- 令和元年は全体の約2.5割が運転中に操作不能となった事案である。

健康状態に起因する事故報告件数 (業態毎の件数)

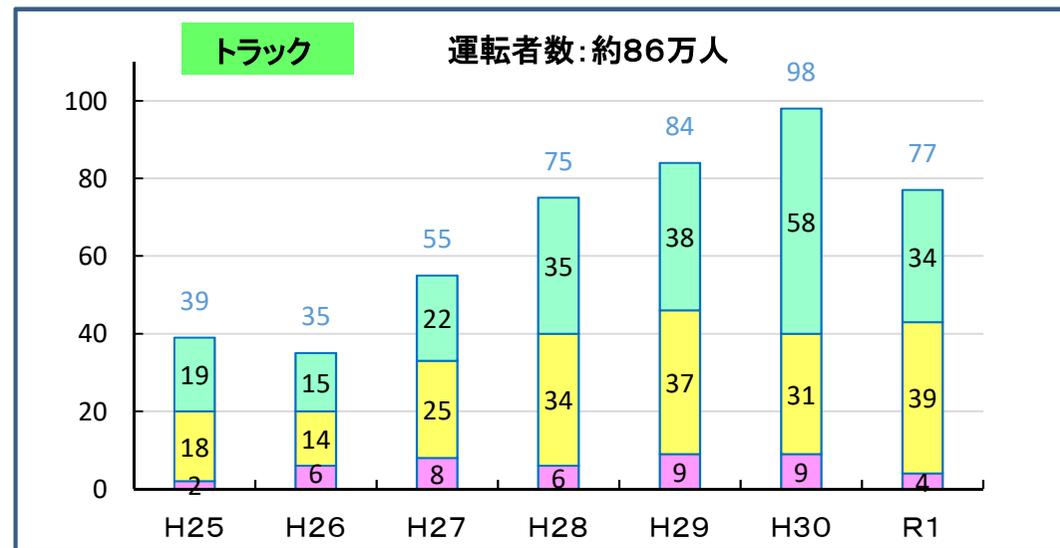
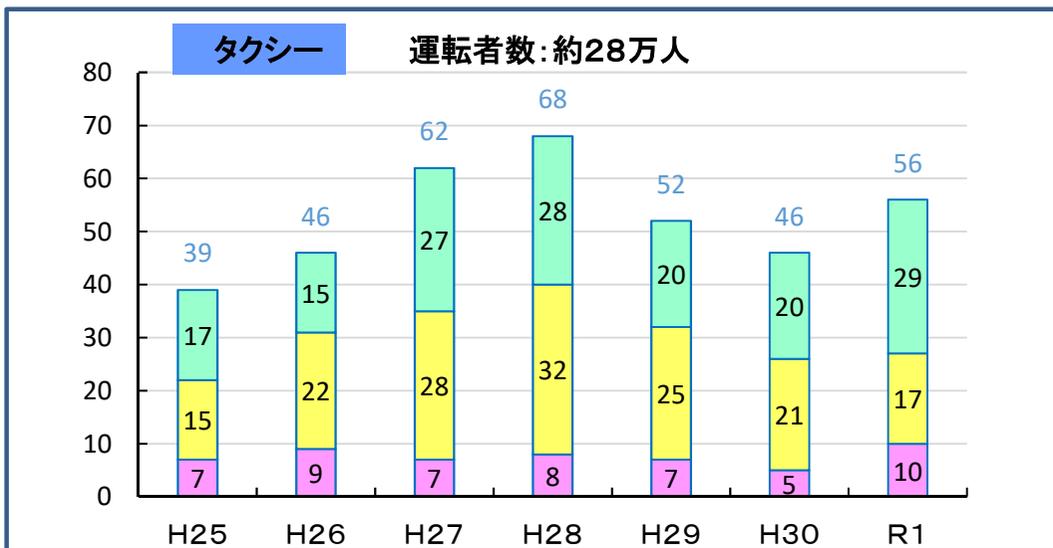
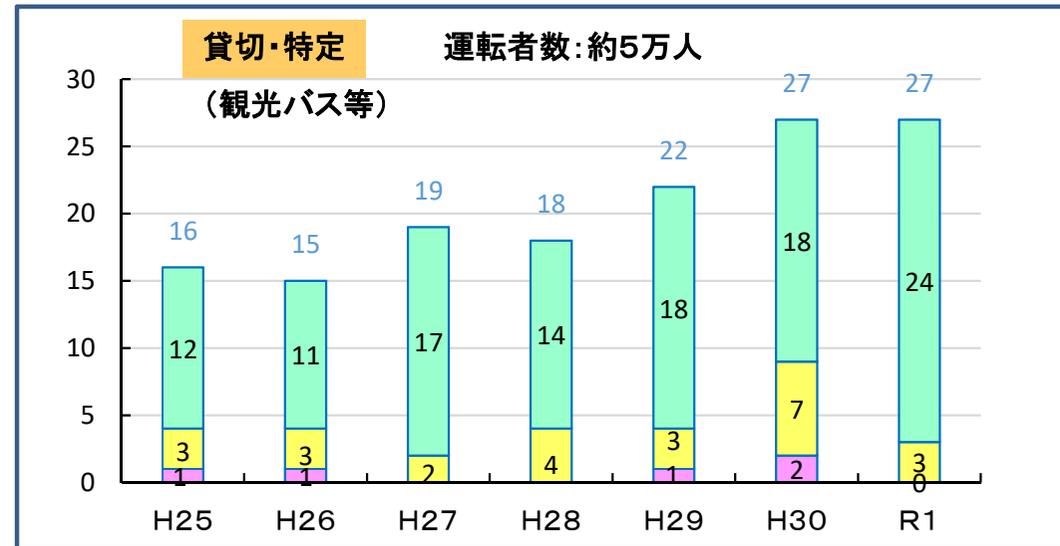
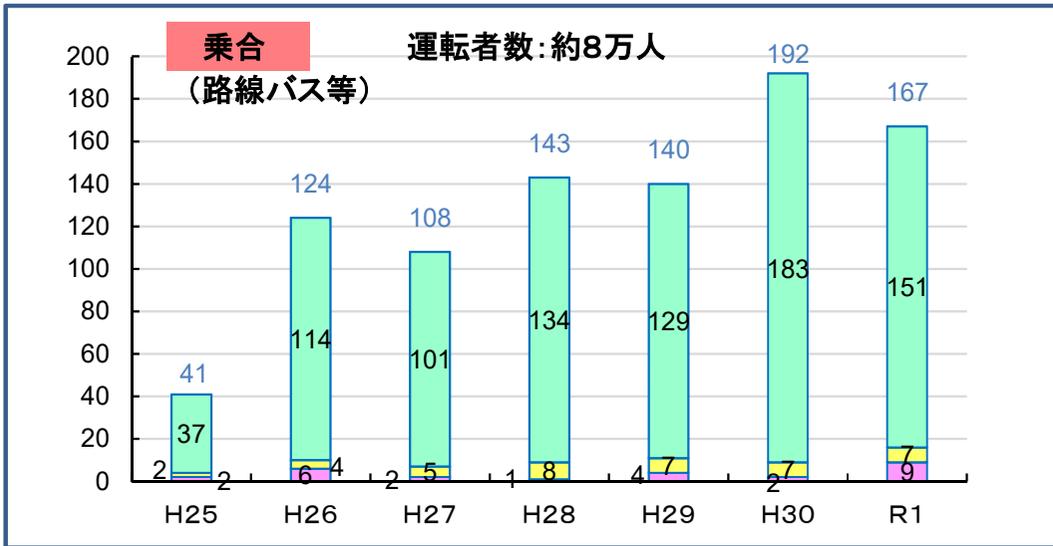


健康状態に起因する事故報告件数 (報告内容毎の件数)



業態別の健康状態に起因する事故報告件数の推移

○乗合バス、トラックにおける令和元年の健康起因事故報告件数は、前年に対して減少している。
 ○タクシーは平成28年以降、健康起因事故報告件数が減少していたが、令和元年は再び増加している。



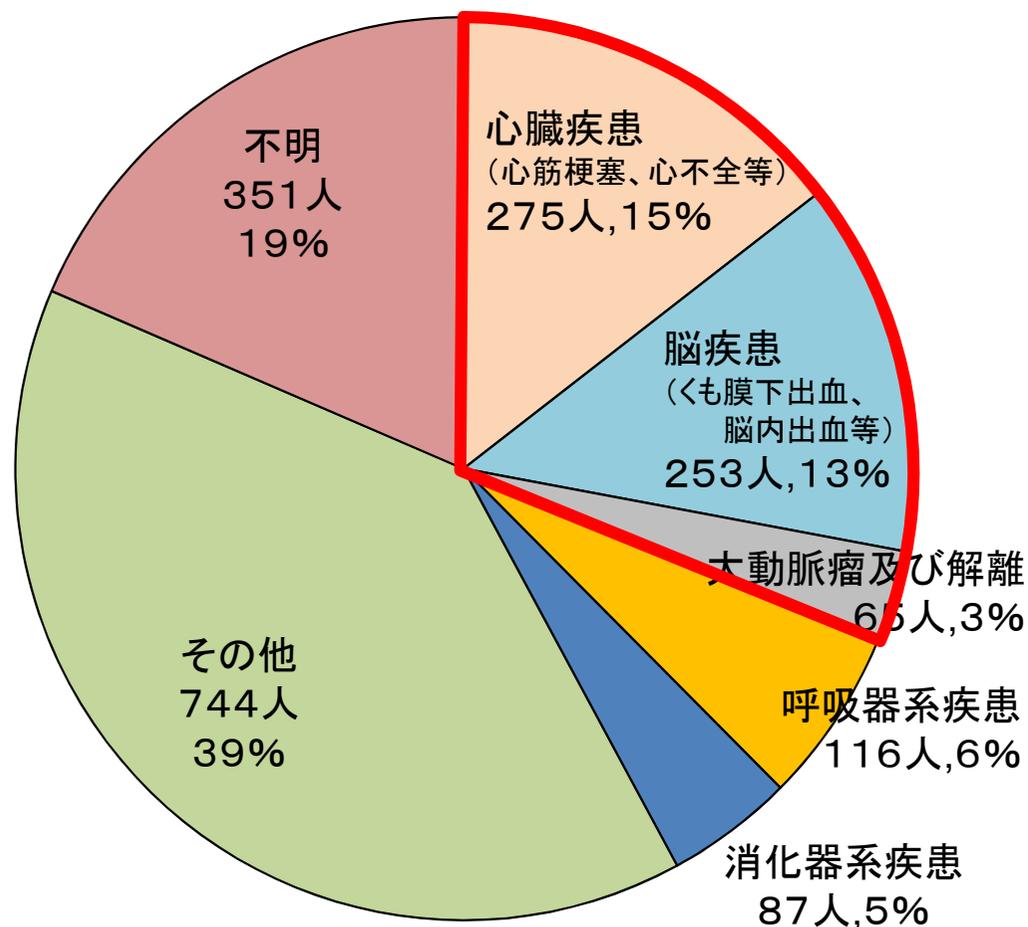
- 衝突・接触がなかったもの (乗務の中断等)
- 衝突・接触を伴うもので、死傷者が生じていないもの (物損事故等)
- 衝突・接触を伴うもので、死傷者が生じたもの (人身事故等)

健康起因事故の疾病別の内訳(平成25年～令和元年)

○過去7年間で健康起因事故を起こした運転者1,891人のうち心臓疾患、脳疾患、大動脈瘤及び解離が31%を占める。
 ○うち、死亡した運転者327人の疾病別内訳は、心臓疾患が53%、脳疾患が12%、大動脈瘤及び解離が14%を占める。

健康起因事故を起こした運転者の疾病別内訳 (平成25年～令和元年)

計1,891人



健康起因により死亡した運転者の疾病別内訳 (平成25年～令和元年)

計327人

